17名がプログラムを完遂し，彼らの食行動異常・社会機能は有意に改善した。治療脱落の危険因子として併発精神障害の存在が考えられた。

21. 摂食障害患者の母親に対するグループアプローチの試み　第2報

鈴木信子，秋元聡子，菊地周一
小林圭介，矢田洋三
（袖ケ浦さつき台）

摂食障害チーム医療の一環として患者の母親グループを継続的に行った。前回のグループを検討し，母親の希望を取り入れ新しいプログラムを作成した。その結果会話量も増え，グループの成長が見られた。またグループから治療チームに対する意見が出るようになり，治療が双方向的になってきている。

22. 非定型抗精神病薬への切り替え段階において精神症状が悪化した症例の検討：長期慢性統合失調症の症例を中心に

橋本　佐，飯島　毅，高橋康弘
佐竹直子，岡田純一
（銚子市立総合）

非定型抗精神病薬の治療効果の検討と，切り替えにより精神症状が悪化した症例の検討をした。増悪したほとんどの症例は長期治療歴があった。長期治療歴のケースは，非定型薬による軽快率が低く。不変が多かった。増悪例では推奨される切り替えのプロトコールがなされてないことが多かった。

23. 当院緩和医療チームの現状と未来

大上俊彦，岡本英輝，茂木伸一
鶴岡義明，池田政俊，竹内龍雄
（帝京大市原）

当院では2002年より緩和ケアチームによる診療が行われている。今回はその現状と問題点につき報告した。60％のがん患者になんらかの精神症状が認められ，チームにおける精神科医の役割は大きいと思われた。

24. 精神科病院における音楽療法の試み：音楽療法による治療的アプローチの一考察

春日真里，鈴木洋文
（同和会千葉）

精神科領域での音楽療法は，能動的音楽療法が多く実践されています。当千葉病院ではH13年12月より音楽療法を導入，当日はその中で受容的音楽療法，ここでの心理療法的アプローチの中で一男性患者の嗜考曲の変化に着目，その心理の変化をその都度表出される感情や言語化された表現等から精神科病院での受容的音楽療法による心理療法的アプローチの可能性を報告します。

25. 精神科領域における絶食療法の応用：心身医学的アプローチが有効であった3例

菊池周一，松本秀吉，矢田洋三
（袖ケ浦さつき台）

抑うつ状態，神経性大食症等の3例（全例女性）に東北大式絶食療法を施行し，軽快～完治が得られた。絶食による脳の生理学的変化を背景に洞察が促進されたと推測され，絶食療法が精神科領域でも有用な補助療法となりうると考えられた。

26. 千葉大学精神科における気分障害薬物治療ガイドライン

野々村司，渡邉博幸，伊豫雅臣
（千大）

千葉大学精神科における大うつ病性障害（重症例）に対する治療アルゴリズムを作成し，アルゴリズムに沿って治療，寛解を得た2症例を報告した。薬剤に対し，無効性，不耐性を示す症例には，従来，electoconvulsive therapy（ECT）を選択する場合が多かったが，より侵襲の少ないtranscranial magnetic stimulation（TMS）が有効な場合もあり，今回アルゴリズムに組み入れた。

27. 千葉大学精神科における統合失調症薬物治療ガイドライン：その妥当性の検証を中心に

渡邉博幸，伊豫雅臣　（千大）
竹田修志　（東京厚生年金）
吉村政之　（成田赤十字）
浅香琢也（精神科医療センター）

2001年に千葉大学医学部附属病院精神科における統合失調症薬物療法ガイドラインを，Evidence Based Medicineに基づく方法論により作成した。更に2002年に本ガイドラインの妥当性の検証を行った。入院症例を対象として，導入前後の薬剤使用量，在院日数などの治療のアウトカムの変化を比較検討した。その結果，ガイドライン導入によるこれらの指標の改善が，統計的有意差をもって示された。